

河北総合病院

公的医療機関等 2025 プラン

平成 29 年 10 月策定

【河北総合病院の基本情報】

医療機関名 : 河北総合病院

開設主体 : 社会医療法人

所在地 : 東京都杉並区阿佐谷北1丁目7番3号

許可病床数 : 一般病床 331床

(病床機能別)

許可病床計	331
－入院基本料7対1	211
－ハイケアユニット入院医療管理料	8
－特定集中治療室管理料	12

診療科目 : 33科

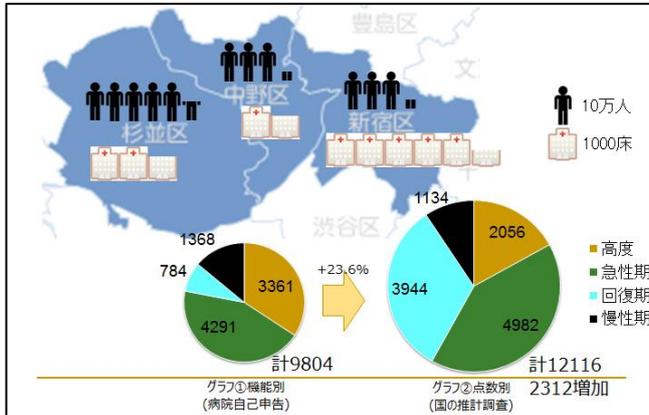
内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、リウマチ科、リハビリテーション科、小児科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、耳鼻いんこう科、泌尿器科、眼科、皮膚科、放射線科、麻酔科、糖尿病・内分泌・代謝内科、腎臓内科、消化器外科、病理診断科、臨床検査科、救急科、感染症内科、血液内科、疼痛緩和内科、精神科、産科、婦人科、血管外科、形成・美容外科

職員数 :

職員数計	748
－医師	158
－看護職員	362
－専門職	167
－事務職員	61

【1. 構想区域の現状と課題】

区西部は、新宿区・中野区・杉並区の3区で構成されており、特に新宿区は、特定機能病院等の大規模病院が集中し、医療資源が恵まれている。一方、当院が位置している杉並区は、人口に対する病床数は少なく、地域完結型の医療提供体制を構築するために拡充していく必要がある（図1）。また3区の中で杉並区は0-14歳の人口が多い区であり、2015年度出生数は4,828件であり小児周産期領域のニーズが高い（表3）。



(図1)

平成28年度 病床数 (構成比)	新宿区	中野区	杉並区	区西部計	2025年 推計必要病床
高度 急性期	3297 (61%)	24 (1%)	40 (1%)	3361 (34%)	2056 (17%)
急性期	1793 (33%)	970 (58%)	1528 (56%)	4291 (44%)	4982 (41%)
回復期	217 (4%)	221 (13%)	346 (13%)	784 (8%)	3944 (33%)
慢性期	102 (2%)	462 (28%)	804 (30%)	1368 (14%)	1134 (9%)
総合計	5409	1677	2718	9804	12116
病院数	14	9	20	43	

2312
増加

東京都保健医療計画上の
既存病床数は▲68床
(区西部・平成29年4月時点)

(参考)東京都地域医療構想 平成29年5月/平成28年7月

(表1)

区西部における病床機能報告（※1）を区毎にみると高度急性期は、新宿区に集中しており、杉並区と中野区は少ない。新宿区の一部の病院では病床機能報告を制度に基づいたとは考えられない数字を提出しているため地域医療にそのまま適応するには無理がある。一方で、回復期と慢性期は、杉並区と中野区に偏っている。また、国の推計値によると2025年総必要病床数※2は総数12,116床であり、現在数からみると2,312床不足するという結果であるが（表1）、必要病床数推計時の病床稼働率が実稼働に比して低く設定されていること、在宅医療がますます推進されることを考えると2025年の区西部の不足病床数は数百床程度と考える。

以上、区西部の中では病床数の偏在、病床機能報告制度に基づいた機能別病床数においても偏りがあることが課題として見えてくる。更には患者からみれば病床機能に定義されている様々な機能は本来、在宅医療を含めて連続して提供されるものであることに留意した上で今後の方針を決める必要がある。

※1…平成28年度病床機能報告

※2…将来（平成37年（2025年））の病床数の必要量推計

2025年度の区西部人口について、総人口は2015年比98.1%であり人口減少は少ないが、65歳以上は123.5%であり医療需要は増加することが予測される。(表2)

新宿区 (千人)	2015年	2025年	2040年	中野区 (千人)	2015年	2025年	2040年
0-14歳	27	27	22	0-14歳	22	19	16
15-64歳	239	240	213	15-64歳	220	207	166
65歳以上	71	75	97	65歳以上	70	74	92
総人口	337	342	332	総人口	312	300	274
高齢化率 (%)	21.1	21.9	29.2	高齢化率 (%)	22.4	24.7	33.6
杉並区 (千人)	2015年	2025年	2040年	東京都 (千人)	2015年	2025年	2040年
0-14歳	53	42	30	0-14歳	1490	1310	1060
15-64歳	380	326	250	15-64歳	8990	8540	7130
65歳以上	106	156	184	65歳以上	2680	3320	4120
総人口	539	524	464	総人口	13160	13180	12310
高齢化率 (%)	19.7	29.8	39.6	高齢化率 (%)	20.4	25.2	33.5

(参考) 高齢化率・・・65歳以上の割合

(表2)

【2. 今後の方針】

① 地域において今後担うべき役割（5疾患5事業及び在宅医療）

5疾患5事業及び在宅医療に対して、当院が有する医療機能に加えて高度急性期ならびに急性期機能を拡充する

〈疾患〉 がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患

〈事業〉 救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療、在宅医療

2020～2040年の杉並区における増加する疾患群患者数推計は、新生物（がん）・内分泌、栄養及び代謝・神経系（アルツハイマー型認知症等）・眼及び付属器・循環器系（心臓・脳血管）・筋骨格系及び結合組織である。5疾患に該当する領域を含め、診療体制等に関して検討をし、地域医療を中心に地域の期待に応える医療提供を進めていく。

② 今後持つべき病床機能

2025年に向けて、河北総合病院建替いを計画している。そのため、河北総合病院331床と分院76床を合わせた407床について、杉並区と隣接地域における医療需要の変化に合わせて見直しをする。

建替え後の病院機能の特色は、高度急性期及び急性期病院として救急医療（小児含む）、災害医療、がん診療及び周産期医療などの中核病院を目指す。それにより、地域連携や高度急性期病院としての機能を高め、地域医療支援病院としての役割を引き続き担っていく。

さらに、在宅・介護施設等からの急性増悪した患者の受入や高度急性期及び急性期病院からの円滑な転院など、更なる地域医療機関との連携強化を助長し、地域包括ケアシステムを促進する。

③ その他見直すべき点

社会的な課題となっている労働力人口減少に対しては、出産・育児で職場を離れる30～40代女性の活用や高齢者の活用、外国からの移民受け入れによる対策を検討する。

さらに河北医療財団が有する施設や地域の医療機関、介護施設等との連携を強化し、ICTによるシームレスな情報共有や一貫した医療提供体制を構築する。

【3. 具体的な計画】 ※2. ①～③を踏まえた具体的な計画について

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成 28 年度病床機能報告)		将来 (2025 年度)	
高度急性期	20	→	80	さらに総合病院建替えに向けて 高度急性期機能を拡大する
急性期	387		327	
回復期	0		0	
慢性期	0		0	不足する機能を補填するため 地域医療機関との連携強化する
(合計)	407		407	

[算出方法]

現在（総合病院と分院の合計病床数）高度急性期病床数は、病床機能報告制度に準じて、特定集中治療室とハイケアユニット病床の合算数 20 床である。また、国の推計方法※2 による現在の当院 407 床のシミュレーションをした結果、高度急性期病床数は 80 床、他急性期等 327 床であった。そして地域医療への貢献を考えると救急医療、がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患等は患者にとって自宅から遠くない地域総合病院が担うべきと考えられ、投入医療資源から見ても妥当な数字であると思われる。

※1…平成 28 年度病床機能報告

※2…将来（平成 37 年（2025 年））の病床数の必要量推計

<（病棟機能の変更がある場合）具体的な方針及び整備計画>

特記事項なし

<年次スケジュール>

	取組内容	達成目標	(参考) 関連施策・制度等
2017年度		○自施設の今後の病床のあり方を決定(本プラン策定)	
2018年度		○新総合病院基本設計	・医療介護同時改定 ・まちづくり計画
2019年～2021年度		○新総合病院詳細設計	・都市計画手続き ・土地区画整備事業
2022年～2024年度		○新総合病院着工	
2025年度		○新総合病院開設	

① 診療科の見直しについて

2. 今後の方針に沿って、検討中である。

② その他の数値目標について